

インフルエンザワクチン接種を受ける前に

次の事項をよくお読みになったうえで、接種を受けてください。

1 インフルエンザワクチンの効果

予防の基本は、流行前に予防接種を受けることです。感染を完全に阻止する効果はありませんが、インフルエンザの発病を予防することや、発病後の重症化や死亡を予防することに関しては一定の効果があるとされています。

なお、ワクチン接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、その効果が十分に持続する期間は約5か月間とされています。そのため、毎年インフルエンザが流行する前に接種を受けておくことが必要です。一般的には、65歳以上の方は1シーズン1回のワクチン接種で効果があるとされています。

2 予防接種を受ける前に

インフルエンザワクチン接種の必要性や副反応についてよく理解しましょう。気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師に質問しましょう。

予診票は原則として接種を受ける方が責任をもって記入し、正しい情報を医師に伝えてください。

インフルエンザワクチンと新型コロナワクチンは、同時に接種することも可能です。

(1) 予防接種を受けることができない人

- ・接種当日、明らかに発熱（通常37.5度以上）のある人
 - ・重篤な急性疾患にかかっている人
 - ・予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシー※を起こしたことが明らかな人。
 - ・その他、医師が不適当な状態と判断した人
- ※ 通常接種後30分以内に起こる強いアレルギー反応のことです。

(2) 予防接種を受ける際に、接種医とよく相談しなくてはならない人

- ・心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する人
- ・予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状がみられた人
- ・過去にけいれんの既往のある人
- ・過去に免疫不全の診断がなされている人および近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- ・間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患がある人
- ・接種しようとする接種液の成分または鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものに対してアレルギーを起こすおそれのある人

裏面もご覧ください

3 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ・ 予防接種を受けた後 30 分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- ・ 副反応の多くは 24 時間以内に出現します。特にこの間は体調に注意しましょう。
- ・ 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ・ 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や飲酒は避けましょう。
- ・ インフルエンザワクチンを接種してもインフルエンザを 100% 予防できるとは限りません。インフルエンザをはじめとする感染症の予防には、十分な栄養や休息をとる、外出時のマスク着用や帰宅時の手洗いなどが有効です。

4 副反応

- ・ 接種後に注射部位の腫れ、痛み、発熱等の副反応がみられることがありますが、通常は 2～3 日で消失します。
- ・ 予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、医師（医療機関）の診療を受けてください。
- ・ インフルエンザワクチン接種後に副反応と疑われる症状を医師が診断した場合は、医師から「(独)医薬品医療機器総合機構」を通じて厚生労働省への副反応疑い報告がなされます。インフルエンザワクチン接種によって引き起こされた副反応により、健康被害が生じた場合は、法に基づく給付を受けることができる場合があります。
詳細は下記までお問い合わせください。

お問合せ 調布市福祉健康部健康推進課 ☎042-441-6135